

守備を参考にしているプロ野球選手は源田壮亮選手(埼玉西武ライオンズ)。「全てにおいてハイレベル。見習うところが多くてとても勉強になります」と、普段ノックを受けている映像を見て研究しているという



### 1年生から正遊撃手 兼ねそろえた実力と人柄

一歩目が早く、球際に強い。捕球し  
てからの球出しの速さはまさに神業  
で、送球も速くて正確。決して派手  
さはなく堅実、しかし魅せる守備。  
プロのスカウトをも唸らせた近江高  
校硬式野球部・土田龍空くんの高い  
守備力は、いったいどのようにして  
培われたのだろうか。

米原市出身。少年野球のコーチを  
務めていた父の影響で野球に興味を  
持ち、1歳からグローブ片手に  
キャッチボールを楽しんだ。小学2  
年生で米原小学校の少年野球チーム  
に入り、中学では長浜市の硬式野球  
チーム・湖北ボーイズに所属。2年生  
から不動のシヨート(遊撃手)となり、  
3年生になるころには全国の名門高  
校野球部から誘いの声がかかるよう  
になる。その中から土田くんが選ん  
だのは、地元の強豪校・近江高校  
だった。

両親と姉の母校で、家から通える  
安心感もあった。同校野球部の多賀



米原野球スポーツ少年団時代の土田くん。小学生のときはサードとキャッチャーを務めた

### 巻頭特集 祝!中日ドラゴンズからドラフト3位指名 近江高等学校硬式野球部

# 土田龍空くん

10月26日に開催されたプロ野球ドラフト会議にて、近江高校硬式野球部の土田龍空くんが中日ドラゴンズから3位指名を受けた。華麗な守備は同世代の高校生ナンバー1ともいわれ、プロの世界でも飛躍が期待されている。

章仁監督は「もちろん声を掛けた。  
当時からそれだけの力量を持ち合わ  
せた選手という評価。縁あってうち  
に来てくれて幸いだった」と当時を  
思い返す。

走攻守を高いレベルであわせ持ち、  
野球センスもある。そんな土田くん  
を、多賀監督は1年生の夏大会から  
レギュラーシヨートとして起用した。  
元は3年生キャプテンが守っていた  
ポジション。難しい選択だった。「高  
校野球はプロ野球とは違い、実力が  
あるからといって簡単には序列を崩  
せないもの。しかし土田には上級生  
に可愛がられる人間的な魅力があり、  
チームメートの誰もが「土田の加入  
はうちのチームにとってプラス」と受  
け入れていたことが大きかった」と、  
多賀監督は決め手を語る。

仲間たちからの信頼と期待に応え、  
土田くんは同大会にて大車輪の活躍  
を見せる。2番シヨートとしてフル出  
場し、地方大会では打率・5.56、打  
点4、盗塁2の好成績を記録。チー  
ムの地方大会優勝と甲子園ベスト8  
入りに貢献した。

甲子園で味わった悔しさを  
向上心に変えて  
1年生の秋大会からは主に3番打  
者を任せられ、土田くんはいよいよ  
チームの主力としての期待を背負う  
ようになる。新チームには1学年上  
に直近の甲子園大会を経験した実力  
者が多く、前年超えの戦績を期待す  
る声も大きかった。

地方大会を順調に勝ち上がり、迎  
えた甲子園初戦の東海大学付属相模  
高校(神奈川)戦。序盤こそ投手戦  
を繰り広げるも、4回に土田くんの  
タイムリーエラーで先制点を許し、  
本来のペースを崩したチームは1対  
6で敗退。土田くんは、自分を責め  
た。「先輩たちにとっては最後の大会。  
申し訳ない気持ちでいっぱいでした」。  
同時に、決心する。「この借  
りは、必ず自分たちの代で、同じ場  
所(甲子園)で返そう」と。

世代が巡り、土田くんは実力と人  
望を買われてキャプテンに就任。新  
チームをまとめ上げる一方で、自らの  
守備を見つめ直した。守備機会が訪  
れる前のポジションニングに始まり、打  
球の捕球体勢、握り替え、送球動作の  
一点一点に至るまで。社会人野球チー

ムの練習に参加し、守備の名手だった  
コーチから教えを受けたのも大きかっ  
た。天性のセンスに理論が加わり、土  
田くんの守備は劇的な進化を遂げる。

そうして迎えた2020年、思わ  
ぬ災厄が降りかかる。新型コロナウイルス  
イルス感染症拡大への懸念から、春  
と夏の甲子園大会が中止に。多くの  
仲間たちがモチベーションを失う中、  
土田くんの切り替えは早かった。落  
ち込む仲間たちを励ましつつ、活動  
自粛期間中も自主トレーニングに集  
中。甲子園という目標はなくなった。

しかしもとより、土田くんがめざす  
野球人生には続きがあった。  
県内で開催された独自大会の終了  
を待たずして、土田くんは日本高等  
学校野球連盟にプロ野球志望届を提出  
する。「プロという目標がなければ



近江高校硬式野球部監督  
多賀章仁さん  
県内屈指の強豪チームを率  
いる名將。早くから土田くん  
の才能を見抜き、成長を後  
押しするフィールドを整えた

ば、野球そのものをしていなかったか  
もしれません」。夢は、目の前にまで  
迫っていた。

### 野球少年たちに夢を プロの舞台での活躍を誓う

運命の10月26日、プロ野球ドラフ  
ト会議にて、土田くんは中日ドラゴ  
ンズから3位指名を受ける。「3位  
という高い評価は、土田の伸びしろ  
に期待していたのだ証拠。今はまだ  
プロとしてはパワー不足」と多賀  
監督は冷静に評価する一方で、「3、



上)守備の名手になるまで使込んだグローブ。球  
団入りの際は新たなグロー  
ブを持参し、フレッシュな気  
持で夢の舞台へ立つ  
右)目標は「日本一」。チーム  
が近江高校から中日ドラゴン  
ズに移っても変わらない

4年はしっかりと体づくりに励み、  
体力、体幹、メンタルを磨いてほしい。  
大変な世界だと思おうが、自分を見失  
わずにがんばり続けられれば、彼なら  
きっとプロでもやっていけるはず」と  
大きな期待を寄せる。

夢が叶ったいま、次なる目標はプ  
ロでの活躍だ。近江高校で培った守  
備へのこだわりはプロになっても高  
く保ちたい考えで、めざすは「シヨ  
ート一本」。偶然にも入団するのはセ  
リーグ球団。いつか二軍昇格を果たし  
た折には、甲子園球場でシヨートを  
守る土田くんの姿が見られるかもしれ  
ない。高校時代に忘れ物をした場  
所。そこに、次はプロ野球選手とし  
て立つ。

「龍空」という名前を、たくさん  
の人に覚えてもらいたい。野球に打  
ち込む子どもたちが憧れるような選  
手になりたい。そのために、目の前の  
ことに一生懸命取り組んでいきます」と  
と意気込みを語る土田くん。近江プ  
ルーをまとった若き球児は、来年か  
らドラゴンズブルーのユニフォームに  
袖を通し、夢の舞台を突き進んでい  
く。龍は空に。その昇龍伝説を、しっ  
かりと目に焼き付けたい。



### 土田龍空くん Tsuchida Ryuku

- 2002年12月30日生まれ
- 米原小→米原中→近江高校
- 180cm / 77kg / 右投げ左打ち
- 高校通算30本塁打 / 50m6.0秒

近江高校では1年生の夏大会から  
シヨートのレギュラーに定着。3年生では  
キャプテンを務め、地方大会3連覇に  
貢献した(2020年は滋賀県独自大会)

打撃を参考にしているプロ野球選手は森  
友哉選手(埼玉西武ライオンズ)と大谷翔  
平選手(ロサンゼルス・エンゼルス)。「森選  
手は下半身の使い方、大谷選手は全身の  
使い方を参考にしています」と土田くん